



PAGs 検査で空胎を早期に確認しましょう！

PAGs 検査では、乳汁に含まれている妊娠関連糖タンパク(PAG)の数値を調べることで、乳牛の妊娠を判別することができます。既に多くの酪農家で取り組まれているかと思われませんが、改めてPAGs 検査を活用するメリットと活用する際の注意点についてお知らせします。

(1) PAGs 検査を活用するメリット

☆乳牛の妊娠状態を早期確認！

人工授精後 28 日以降から判定可能なため、従来の妊娠鑑定よりも速く結果が手に入ります。判定結果が『-』か『±』の場合は、発情発見と不受胎牛の再授精に繋げましょう。

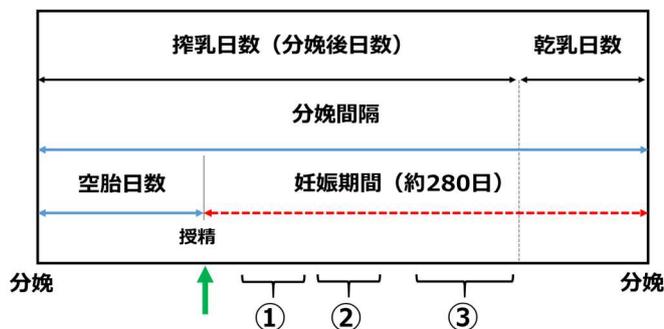
☆人と牛への負担を軽減！

搾乳時に乳汁サンプルを採取するため、直検による妊娠鑑定と比べて、牛への負担が減ります。また、牛を捕まえる作業が必要ないため、作業の負担軽減にも繋がります。

☆妊娠鑑定との合わせ技でがっちり受胎！

妊娠鑑定の判定結果と組み合わせることで、胚死滅や早期流産等による空胎を発見しやすくなります。また、PAGs 検査を継続的に行うと、受胎確認の精度向上に繋がります。

※授精後日数の目安：PAGs 検査と妊娠鑑定を組み合わせよう



- ① 28～35日目頃
⇒ 空胎牛を早急に見つける **PAGs 検査 オススメ!!**
- ② 65～75日目頃
⇒ 受胎確認 (初期胚死滅の発見・再授精の実施)
- ③ 100日目頃～乾乳前まで
⇒ 乾乳前の受胎確認 (流産発生等) **PAGs 検査 オススメ!!**

図 PAGs検査を活用した妊娠検査タイミング (目安) 出典：十勝農協連 畜産検査センターの事業概要より一部改訂

(2) PAGs 検査を活用する際の注意点

☆乳汁サンプルの採取は正確に！

乳汁サンプル中に異物(別の牛の乳汁・ブツなど)が混入すると、正確な結果が得られない可能性があります。乳房炎もしくは治療中の分房は検査対象から外しましょう。

☆乳汁サンプルは冷蔵で保管！

乳汁サンプルは生ものです。劣化防止のため、採取後は5℃以下の冷蔵庫へ速やかに収納しましょう。また、送付までに72時間以上要する場合は、冷凍庫で保管しましょう。

☆検査後も牛の様子をしっかりと観察！

空胎の早期発見と再授精に向けた処置は、繁殖成績の向上に繋がります。PAGs 検査の判定に加えて、他の妊娠鑑定と観察も忘れずに行いましょう。

ご質問は、普及センターまで